

公立新小浜病院移転新築工事 実施設計(概要版)

新病院の特徴について

1. 地域の人々に信頼される病院づくり

- ・新病院を国道に接した敷地へ移転し、来院者の利便性の向上を図ります。
- ・外来患者さんの移動を最小限としたワンフロアで完結できる「ワンフロア外来」とします。
- ・新たに透析部門を3階に設置し、地域の人々のニーズに応えます。
- ・将来を見据え、地域包括ケア病床等に柔軟に対応可能となる病棟計画とします。
- ・橘湾の眺望を望むデイルームを配置します。

2. 災害医療への対応

- ・計画建物は現況地盤面より1m程度高上げし、津波対策を施します。
- ・建物の構造体分類をI類(重要度係数1.5)とし、地震に強い病院とします。
- ・自家発電装置を整備し、停電した場合でも3日間連続運転が可能な病院とします。

3. 医療機能の充実

- ・救急動線を整備し、救急患者さんの受け入れをスムーズに行える計画とします。
- ・感染出入口を設け、院内の他エリアへの感染を抑制します。
- ・建物西側に将来の変化等に備え、増築スペースを確保します。
- ・救急処置室と放射線部門及び関連部門を隣接配置した効率的な動線計画とします。

病院概要

診療科目

一般内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、放射線科、一般外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、リハビリテーション科、精神科、神経内科

病床数

150床 (一般病床 90床 / 療養病床 60床)



国道57号からの完成イメージ

地域から愛される病院を目指します

設計コンセプト

1. わかりやすい敷地利用計画
2. シンプル・コンパクト
3. 骨太な救急動線
4. 快適な療養環境
5. 災害から医療機能を堅守
6. 将来の変化にも対応可能な病院

建築概要

- ・建設場所 長崎県雲仙市小浜町マリーナ3番2、4番
- ・敷地面積 6,831.35㎡
(薬局敷地を含む)
- ・建築面積 2,195.72㎡
- ・延べ面積 7,798.21㎡
建物本体:7,694.74㎡
附帯施設: 103.47㎡
- ・階数 地上6階
- ・建物高さ 最高高さ:30.2m
- ・構造 鉄筋コンクリート造(RC造)
耐震構造

今後の取り組み予定

病院本体工事

- ・平成30年度～平成31年度 建設工事
- ・平成31年度末 開院



外観デザインコンセプト

- ・周辺環境に調和した新病院にふさわしい色彩
- ・海に近い立地の特性を十分に考慮し、耐久性のある建物を実現
- ・不安な気持ちで来院される患者さんを迎え入れるホスピタリティーを表現
- ・地域住民が誇れる新病院を象徴する美しい病院を表現
- ・建物周囲にバルコニーを設けることで緊急時の避難と日射遮蔽を考慮



わかりやすく合理的な敷地利用計画

配置計画

建物配置計画

- ・車寄せが十分に確保できる敷地南側に建物を配置します。
- ・騒音に配慮し国道から離れた位置に建物を配置します。
- ・南北方向に病室を配置し、病室の療養環境に配慮します。
- ・国道に沿ってジャカランダを植栽します。
- ・一般用駐車場と公用車駐車を明確に分離し安全性に配慮します。
- ・敷地西側に将来を見据えた増築スペースを確保します。

外部動線計画

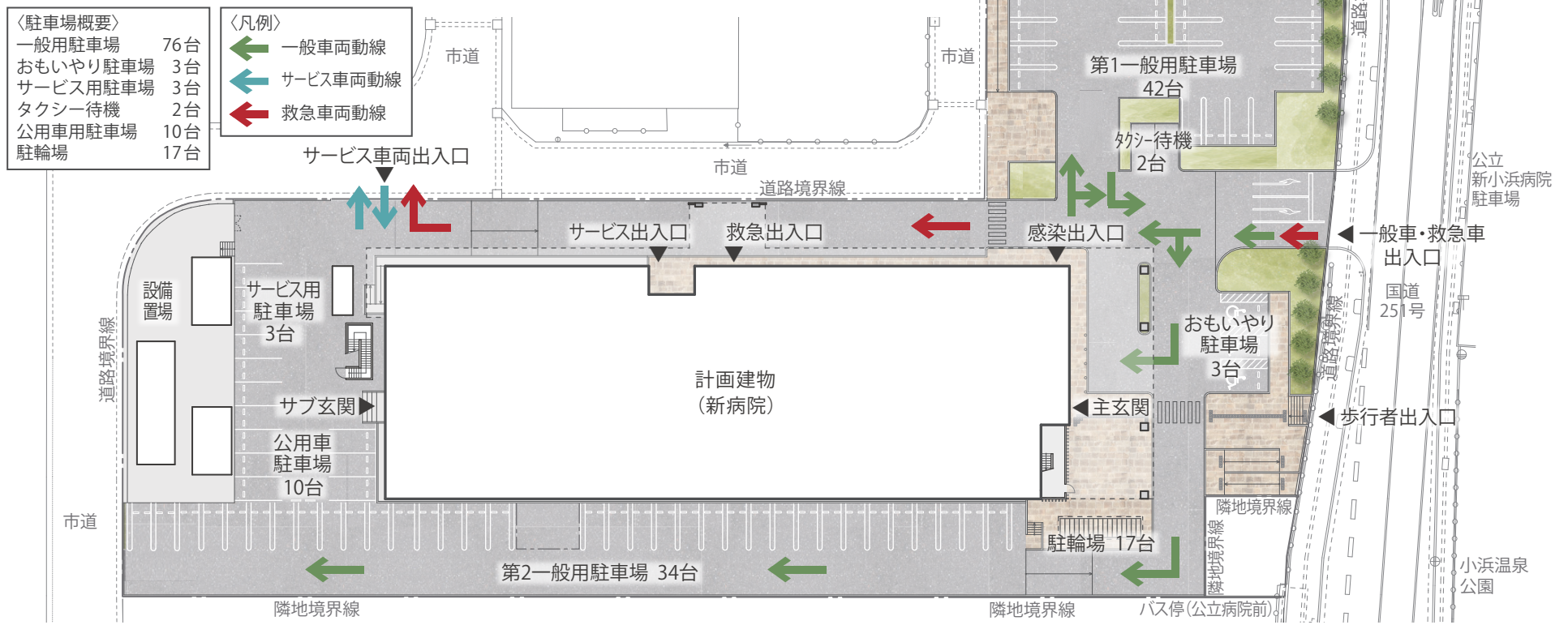
人と各車両の目的・用途を考慮した円滑な動線計画

円滑な車両動線を確保

- ・一般車両とサービス・公用車両の動線を分離し、利用者の安全性に配慮します。
- ・一般用駐車場と公用車駐車を明確に分離します。
- ・車いす利用者専用のおもいやり駐車場を設置します。
- ・玄関ロータリーは庇を設け雨に濡れない車寄せを整備します。
- ・救急車アプローチに配慮し通り抜け可能な動線を確保します。

歩行者の安全を確保

- ・国道251号及びバス停からの歩行者動線を確保します。
- ・敷地北側の第1一般用駐車場からの歩行者動線を確保します。



1 階部門配置計画

管理部門

- ・医事、訪問看護を主玄関に隣接した、わかりやすい位置に配置するとともに、相談室を設置し、患者支援体制をバックアップします。

外来診療部門

- ・外来診療機能を集約したワンフロア外来とし外来患者さんの移動を最小限とします。
- ・ホスピタルストリートを主軸とした明快な配置計画により、わかりやすい計画とします。
- ・診察室は8ブース設置します。
- ・主玄関とは別に感染用出入口を設け、院内の他エリアへの感染を抑制します。
- ・中央処置室には化学療法室を1室設置します。
- ・外来部門に放射線部門を隣接配置することで連携を強化します。

救急部門

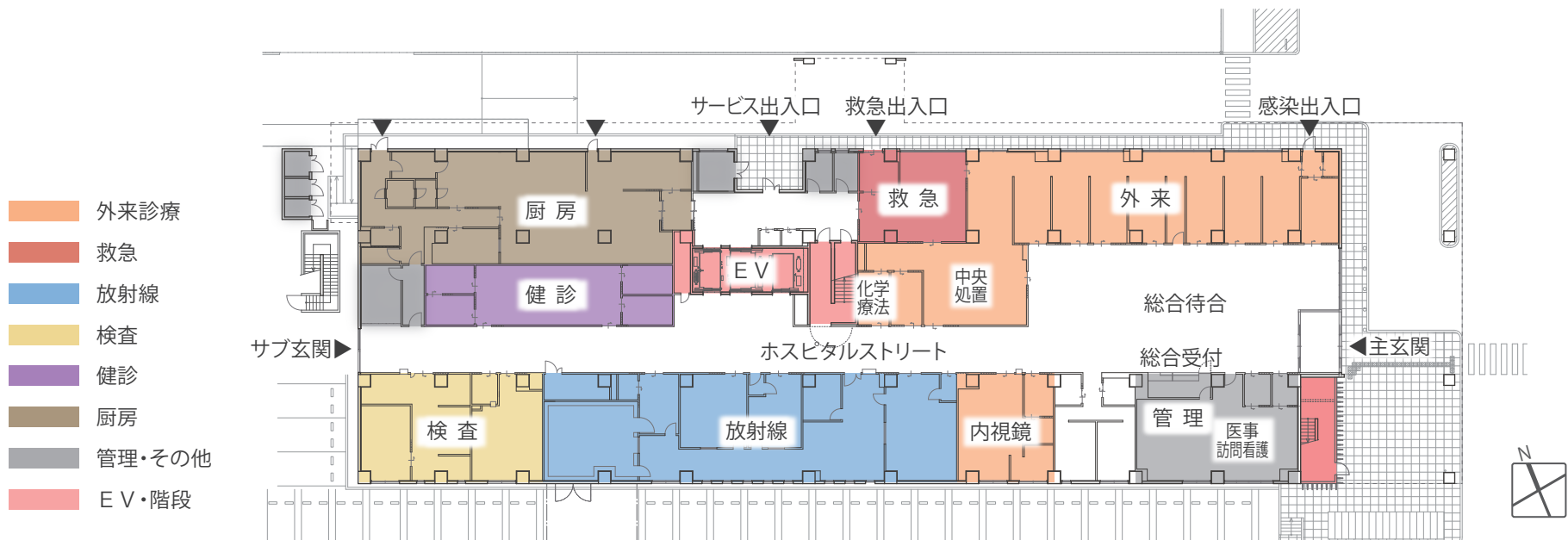
- ・救急処置室と中央処置室、放射線部門を隣接配置させることで連携を強化するとともに、スタッフ動線の効率化を図ります。
- ・エレベーター付近に救急部門、手術部門、病棟重症室を集約することで、円滑な上下移動を可能とする救急動線(エマージェンシーライン)を確保し、患者さんを迅速に搬送します。

健診部門

- ・健診ルームは、健診者さんと外来患者さんとの動線交錯を防ぐ配置とするとともに、専用の受付や待合を設置し、プライバシーに配慮した環境づくりを行います。
- ・生理検査、採血、採尿、放射線と近接させ一体的に整備し、充実した予防医療が可能な計画とします。



総合待合イメージ





3F

3階部門配置計画

透析部門

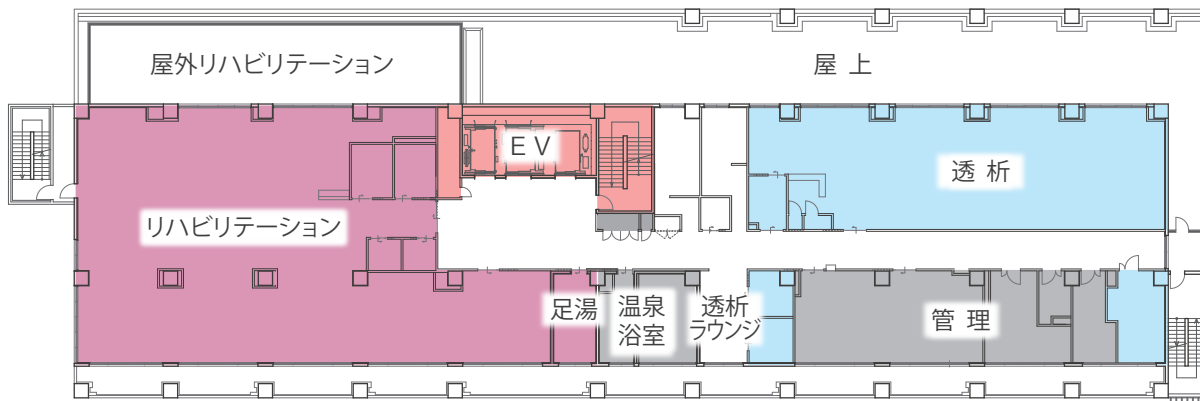
- 透析室を整備し、隔離個室を設けることで感染症対策を施します。
- 建物の南側には透析ラウンジを設け、充実した治療環境づくりを行います。
- 仕上げを木調とし、落ち着いた雰囲気を計画します。

リハビリ部門

- 屋外リハビリテーションを整備します。
- リハビリテーションの一環として小浜の温泉水を使用した足湯を設置します。

管理部門

- 患者さんが利用できる小浜の温泉水を使用した温泉浴室を設置します。



2F

2階部門配置計画

手術部門

- 救急動線を考慮し、エレベーターに隣接して手術部門を配置します。
- 手術室は2室設置し、1室をバイオクリーンルーム(BCR)とします。
- 心カテ室を手術室に近接させ、連携を強化します。

薬剤部門

- エレベーターに近接することで、各部門への搬送動線をスムーズに行える計画とします。

管理部門

- 2階には一般の方が研修などで利用できる講堂を配置します。
- 講堂はスタッフルラウンジと兼用し、職員が働きやすい環境を整備します。



- リハビリテーション
- 透析
- 手術
- 薬剤
- 管理・その他
- EV・階段



透析室イメージ

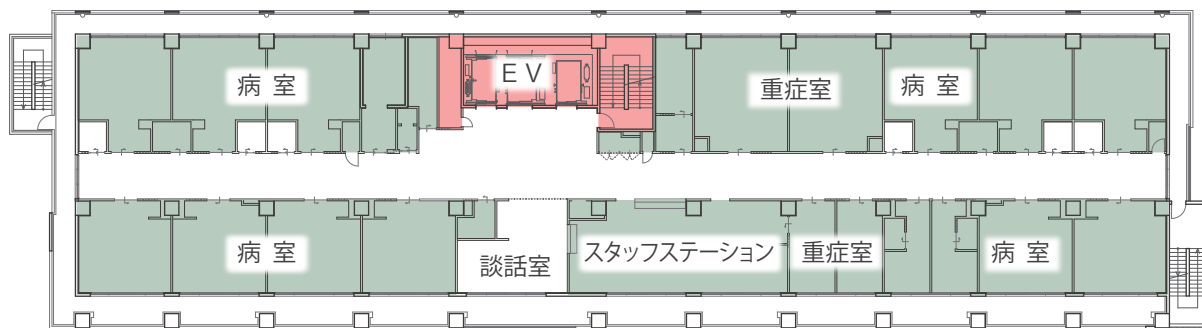


5F

5 階部門配置計画

■ 病棟部門 一般 60 床

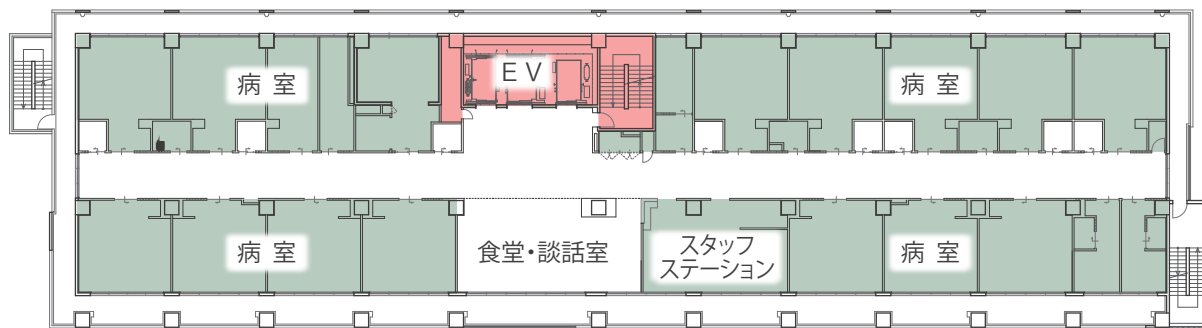
- ・スタッフステーションに近接して重症室を設置します。
- ・重症室は将来H C Uへの転換が可能な計画とします。



4F

4 階部門配置計画

■ 病棟部門 療養 60 床



■ 病棟部門(4~6階)

- ・シンプルな長方形型の病棟とし、コンパクトで効率的な病棟計画とします。
- ・スタッフステーションを病棟の中央に配置し見守られる安心感を与えます。
- ・病棟階の建物周囲にバルコニーを設け災害時には外部へ一時避難が可能な計画とします。
- ・あらゆる種類の病床種別の施設基準に適應するため、適切な廊下幅員を確保します。
- ・スタッフステーションに隣接して食堂、談話室を設け、患者さんの見守りを重視した計画とします。





PHF

PH階部門配置計画

■ 管理部門

- ・PH階には塩害対策として発電機を屋内に設置します。

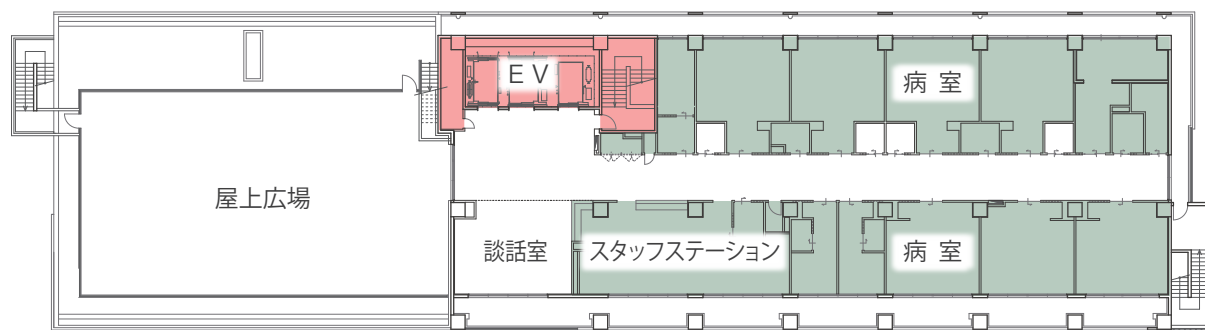


6F

6階部門配置計画

■ 病棟部門 一般30床

- ・6階病棟は将来、地域包括ケア病床への転換を可能とした計画とします。
- ・橘湾を一望できる屋上広場を計画します。



- 病棟
- 管理・その他
- EV・階段

